



# 東海道五十三次の内 関宿

イラスト案内図

## 東海道関宿

関は古代から交通の要衝であり、古代三関のひとつ「鈴鹿関」が置かれていたところ。関の名もこの鈴鹿関に由来しています。

江戸時代には、東海道53次の江戸から数えて47番目の宿場町として、参勤交代や伊勢参りの人々などでにぎわいました。現在、旧東海道の宿場町のほとんどが旧態をとどめない中において、唯一歴史的な町並みが残ることから、昭和59年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

関宿の範囲は、東西追分の間約1.8キロメートル、25ヘクタールに及び、江戸時代から明治時代にかけて建てられた古い町家200軒あまりが残っています。

関宿では、これら歴史的建造物の保存・修復につとめながら、新しいまちづくりに取り組んでいます。

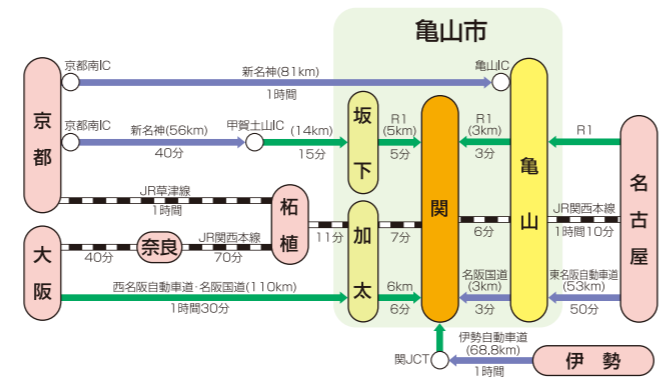
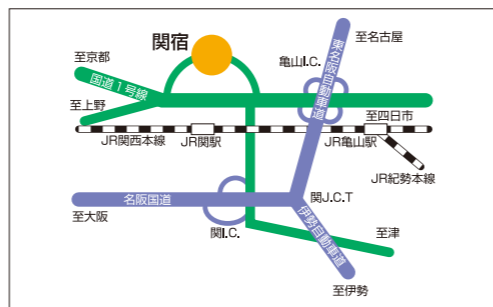


## 鈴鹿関跡

鈴鹿関が初めて歴史に登場するのは、天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子(後の天武天皇)が皇位を争った壬申の乱(672年)の際、大海人皇子が鈴鹿・不破の関を固めた事によります。延暦8年(789年)、桓武天皇によって三関は廃止されますが、その後は天皇の崩御や政変などが起こるたびに儀式としての固関が行なわれました。

鈴鹿関跡の詳細な位置や規模などははっきりとわかっていませんが、近年の調査により、聖武天皇によって整備されたと見られる西限の城壁が確認されています。

## 交通のご案内



## 見学される皆様へお願い

- ・関宿は、私たちの貴重な文化財であるばかりでなく、「生活の場」でもあります。見学にあたっては、特に下記の点にご協力下さい。
- ・市が公開している資料館などを除き、むやみに家の中をのぞかないでください。
- ・狭い道ですので、歩行中の安全には各自十分お気をつけてください。
- ・くわえ煙草、吸い殻の投げ捨てなど、火気には十分お気をつけてください。
- ・ゴミは各自お持ち帰りください。

亀山市 生活文化部  
文化スポーツ課  
まちなみ文化財グループ  
三重県亀山市関町木崎919-1  
TEL 0595-96-1218  
FAX 0595-96-2414



亀山市携帯サイト

亀山市 生活文化部  
地域観光課  
観光交流グループ  
三重県亀山市関町木崎919-1  
TEL 0595-96-1215  
FAX 0595-96-2414

Hatago Museum Tamaya  
**玉屋**  
関宿旅籠玉屋  
歴史資料館

18 玉屋は「関で泊まるなら鶴屋が玉屋、まだも泊まるなら会津屋か」と謳われたほどの、関宿を代表する大旅籠のひとつです。江戸時代に建築された貴重な旅籠建築に、当時使われていた道具類や、庶民の旅に際する歴史資料などを展示して、江戸時代に栄えた旅籠の姿を再現しました。また、土蔵では「東海道五十三次」で有名な歌川(安藤)広重の浮世絵を展示しています。

●入館料(二館共通券)：  
大人300(250)円  
小人200(150)円  
※( )内は30人以上の団体  
●休館日：月曜日、年末年始(12/29~1/3)  
☎0595-96-0468 FAX0595-96-0469

▲土蔵(浮世絵展示室)

▲二階座敷(旅籠の四季)

▲旅籠の店の間

▲坪庭と離れ座敷

**関まちなみ資料館**

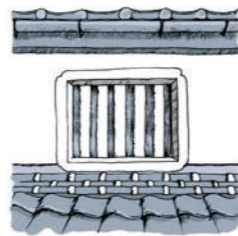
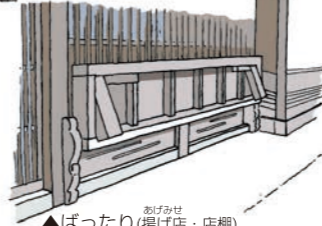
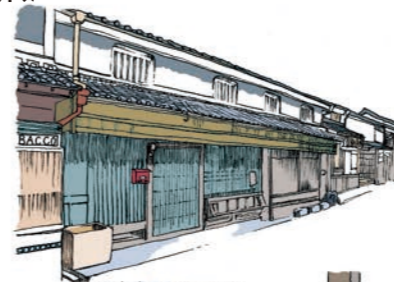
7 関宿の伝統的な町屋を公開した資料館です。関の文化財の紹介や、関宿に関係する歴史資料などを展示しています。また、土蔵二階展示室では、町並み保存事業による町並みの移り変わりを一目で見ることができます。

▲土蔵展示室(町並みの移り変わり)

帳場▶

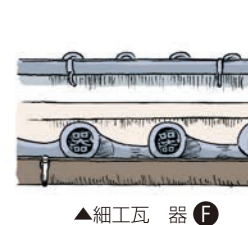
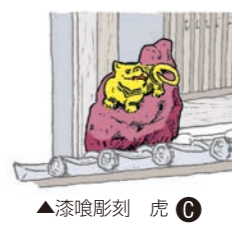
## 関宿の町屋の特徴

関宿の町屋は、最も古いものは18世紀中頃の建築で、明治時代中頃までのものが半数以上を占めます。平入の二階建が一般的ですが、二階前面を土壁で覆った塗籠(ぬかご)のものが目を引きます。A



## 町屋の細部意匠

関宿の町屋には、庇下の幕板、軒の持ち送りの線形、二階の虫籠窓や漆喰細工、起り屋根、格子、建具など、細部の意匠に工夫されたものが多くあります。特に、漆喰細工や瓦細工は、子孫繁栄・家運長久などを願って職人が技をこらして作ったものです。こうした様々な細部の意匠は、多くの人が行き交った宿場町の町屋にふさわしいものといえます。



※ 1~21, A~6 は裏面の地図に対応しています。※ 1 2 7 9 10 11 18 21 はおすすめポイントです。